

製品名: DUSP19 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10203**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	28kDa

抗原情報

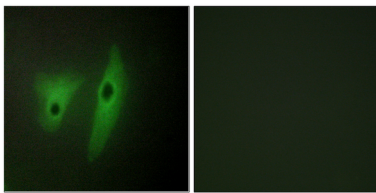
遺伝子名	DUSP19
別名	DUSP19; DUSP17; LMWDSP3; SKRP1; Dual specificity protein phosphatase 19; Dual specificity phosphatase TS-DSP1; Low molecular weight dual specificity phosphatase 3; LMW-DSP3; Protein phosphatase SKRP1; Stress-activated protein kinase pathway
遺伝子 ID	142679.0
SwissProt ID	Q8WTR2
免疫原	抗血清はヒト DUSP19 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

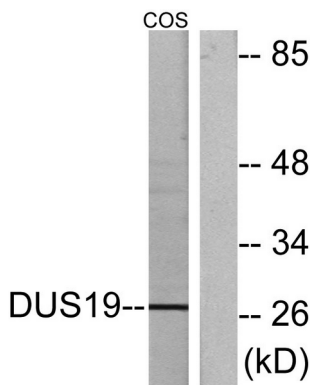
二重特異性ホスファターゼ 19 (DUSP19) ヒト二重特異性ホスファターゼ (DUSP) は、I型システインをベースとしたタンパク質チロシンホスファターゼスーパーファミリーの大規模な異種サブグループを構成します。DUSPは、チロシン残基とセリン/スレオニン残基の両方を脱リン酸化できることを特徴としています。DUSPは、重要なシグナル伝達経路の主要な調節因子として関与していることが示唆されています。DUSP19には、最後のセリン残基がアラニンに置換されたコンセンサス DUSP C 末端触媒ドメインのバリエーションが含まれており、DUSP の MKP (ミトゲン活性化プロテインキナーゼホスファターゼ) クラスに見られる N 末端 CH2 ドメインが欠落しています (MIM 600714 を参照) (Patterson らによる要約、2009 [PubMed 19228121])。[OMIM 提供、2009 年 12 月], 触媒活性:リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。触媒活性:タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。機能:Ser/Thr および Tyr 含有タンパク質に対する二重特異性があります。類似性:タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属します。非受容体クラス二重特異性サブファミリー。類似性: 1つのチロシンタンパク質ホスファターゼドメインを含む。組織特異性: 心臓、肺、肝臓、膵臓で発現する。膵臓での発現レベルが最も高い。、

研究分野

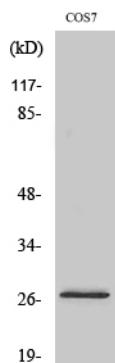
画像データ



DUSP19 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



DUSP19 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



DUSP19 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

